

ルール解説

ルールの理解は勝利への一歩だ！

試合運営委員会から選手の皆さんへ

第二部 第一回テーマ コミュニケーション点を上げたい！

皆さんお久しぶりです、試合運営委員会です。ディベートのルールやテクニックの中で、「あまり理解されていないかも」「もっと知っておいてほしい」というポイントを解説してきた、連載「ルールの理解は勝利への一歩だ！」の再開です。この度始まる第二部では、第一部に比べてやや高度な内容が多くなります。しっかりと読んで、よりよいディベートに繋げて下さい。

さて、再開最初のテーマはコミュニケーション点です。みなさんは、コミュニケーション点が試合の勝敗に影響しないからといって、低くても構わない、オマケのようなものと捉えていませんか？

コミュニケーション点は、審判が感じた「スピーチのわかりやすさ」の指標です。スピーチがわかりにくい時、審判はスピーチ中に「どいうことだろう」と悩んでいます。その間、審判に新しい情報が伝わらなくなり、無駄な時間をつかうことになってしまいます。ディベートでは多くの情報を限られた時間内に伝える必要がありますので、これはとても深刻な問題です。また、コミュニケーション点は時に、順位決定にも関与します。大会で良い成績を残すためにも、コミュニケーション点について考えておきましょう。

◆ポイントは喋る速さだけじゃない

「コミュニケーション点の評価基準＝喋る速さ」と思っていますか？実はルールには、こうあります。

ルール細則D

審判は、立論・質疑・応答・第1反駁・第2反駁のそれぞれについて、話し方、スピーチの速度、議論の構成などを総合し、分かりやすいスピーチであったかという観点からコミュニケーション点を採点します。

このようにコミュニケーション点は、速さのみならず、話し方や構成を総合して、「わかりやすいスピーチだったか」を採点します。それでは、わかりやすいスピーチをするためには、どのようなことに気を付ければよいでしょうか？

◆議論の性質や前提、関係性を明確にしよう

議論のわかりやすさは、読み方だけの問題ではありません。議論の構成、順序、区切り方で、わかりやすさは大きく変化します。

そのためにはまず、議論の性質や前提を理解し、明確にすること。よく見られるのは、話している内容が現状の話かプラン導入後に起きることなのかかわからないという問題です。他にも、一見成り立っているように見える議論が、実は密かに不確定な要素を前提条件としておいていることがあります。この部分が伝わっていないと、審判にはその議論が十分に理解できない可能性があります。情報を明確にすることで、自分達の議論のポイントをより伝えやすくなります。

次に、関係性を明確にすることも大切です。二つの主張があるとき、それらが別々に起る事態の話なのか、原因と結果を述べているのか、場合分けをしているのか……などなど。並行する議論は片方が反駁で崩されてももう一方は成立しますが、原因が不成立のとき結果の話をして意味がありません。また、場合分けを行う場合、それを明確に伝えないと、「さっきと言っていることが違うぞ？」と思われてしまいます。

最後に、立論で出す論点には番号を振っておくことも大事です。単に立論で付けておくだけでなく、質疑や反駁の時にも「発生過程2で述べたように」と言うことで、立論のどの部分の話なのかをわかりやすくします。同じ論点にいくつも反駁するときには、反駁にも一点目、二点目と番号をつけるといいでしょう。スピーチをよくするためには沢山の工夫や練習があります。例えば、原稿を何度も読み、はつきり読めるようにする、重要な部分を強調する、大切な数値の前後に間を置くなどです。また、スピーチを録音して聞いたり、他人に聞いてもらったりするのもよいでしょう。文字で見ればすぐに理解出来る文章でも、実は耳で聞くとよくわからないことも多くあるのです。他にも様々な工夫が考えられます。工夫して「伝わるディベート」を目指してください。

次回予告

次回は、「プランへの反駁」について解説します。第一部の二回・三回とも関連する内容です。